

India EV Market Trend Update 2025-March



INTAGE INDIA Pvt. Ltd.

* The copyright of this report is owned by Intage India Pvt. Ltd./ Intage group.

* In the event that damages or other troubles occur to the user or a third party due to the reprint or citation, Intage India Pvt. Ltd./ Intage group shall not be liable for it.

目次

会計年度別のEV販売台数 P3

FY24 全体に占めるBEV/ハイブリッドの割合 P4

カテゴリー別販売台数比較 P5

会計年度別電動2輪車販売推移 P6

E-2W 地域別販売台数 FY 23-24 P7

メーカー別販売シェア: FY24 P8

販売台数トップ5 EVブランド： 2025年3月期 P9

ハイブリッド車の販売台数及びEV車との比較： 2025年3月期 P10

EVに関する政策の動向 P11

4輪に関する政策 AUTO PLI 概要 P12

EV関連ニュース: 2025年3月 P13

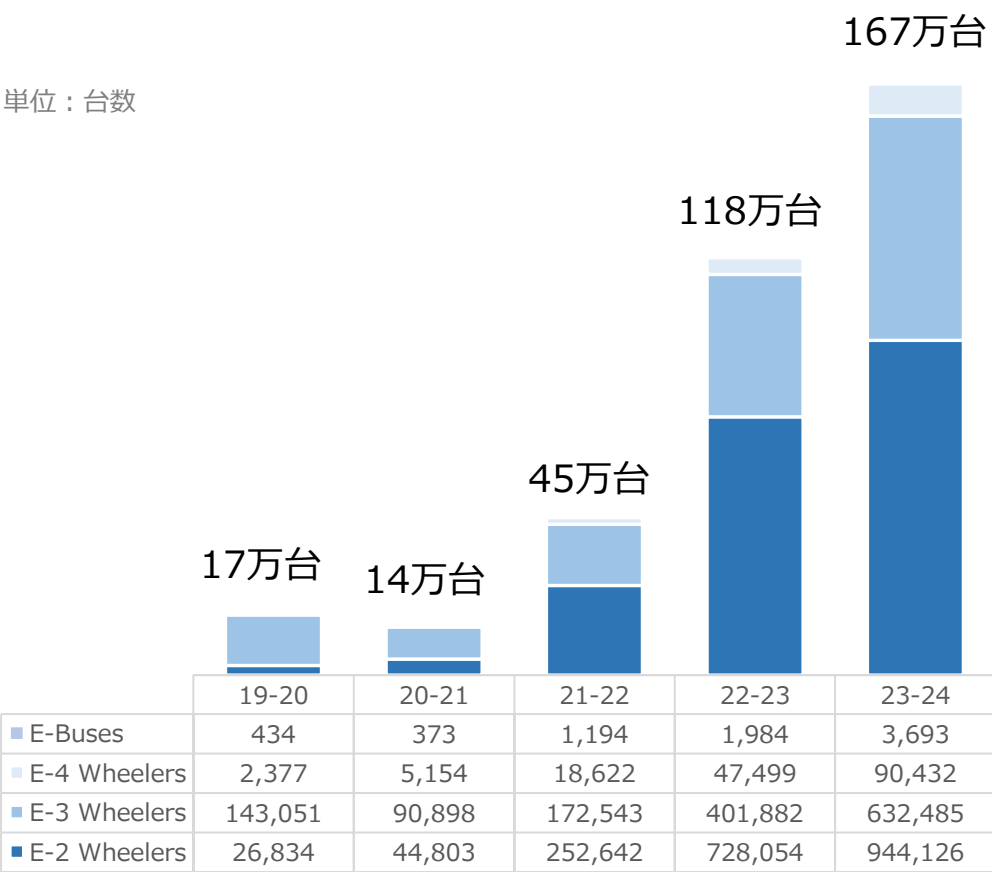
略称	用語
EV	Electric Vehicle（電動車）
ICE	Internal combustion engine（内燃機関）
FY	Financial year（会計年度）
FAME	Faster Adaptation Manufacturing of Electric Vehicle
EMPS 2024	Electric Mobility Promotion Scheme-2024
AUTO PLI	AUTO Production Linked Incentive

一部を除いて、2025年4月1日付で作成しております。

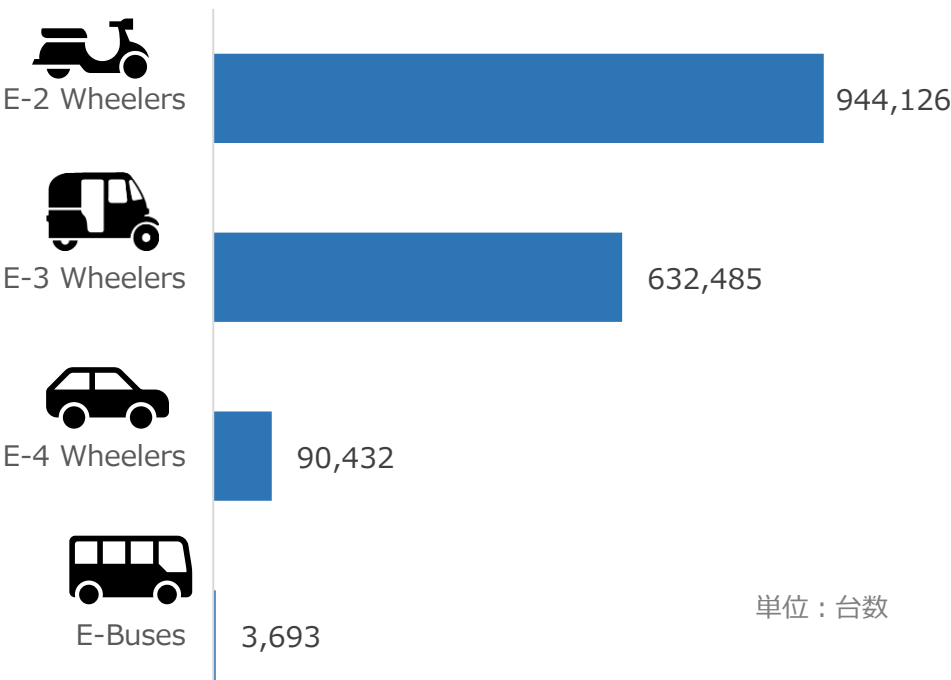
会計年度別のEV販売台数

- インドEV市場においては、2輪と3輪の販売台数が大半を占めている。ICE車より少し初期費用は高いものの、ランニングコストの差額で初期費用を回収することが可能なためと考えられる。一方で、4輪の販売台数は10万台に満たない。

会計年度別販売台数



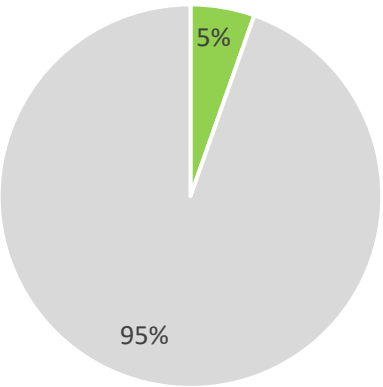
販売台数車両別：FY24



FY24 全体に占めるEV/ハイブリッドの割合

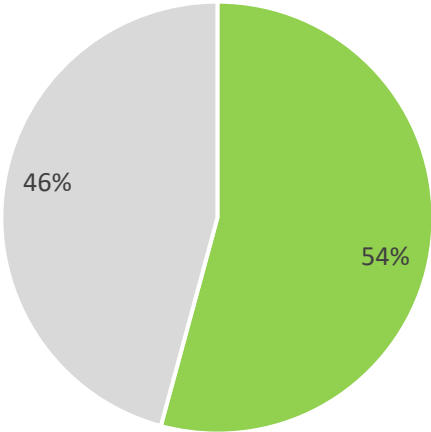
- 2-Wheelerと4-Wheelerの販売台数は上昇傾向にあるが、現時点ではガソリンタイプを含めた売上台数の割合では10%にも満たないのが現状である。
- 一方で、3-WheelerはEVの販売割合が50%以上となっており、EVが非常に多く販売されている。

2-Wheeler



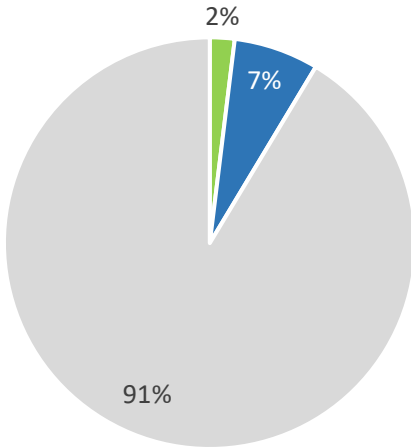
E-2-Wheeler Other

3-Wheeler



E-3-Wheeler Other

4-Wheeler

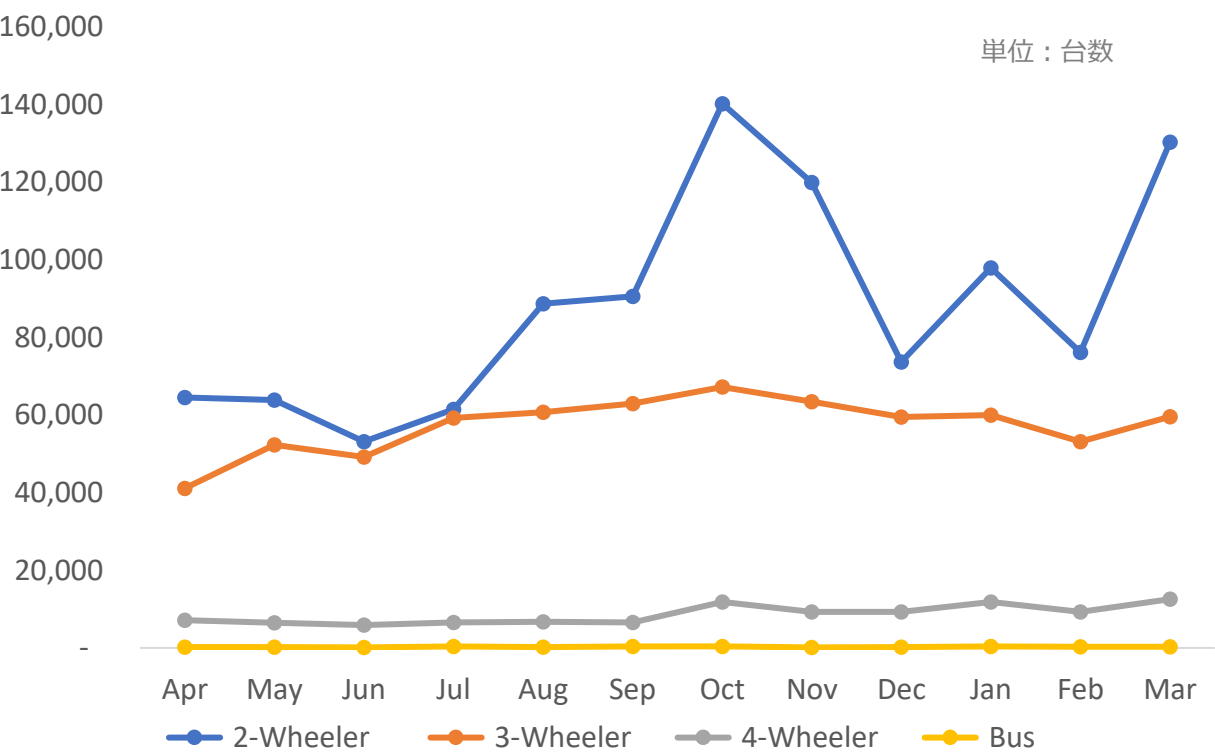


BEV Hybrid Other

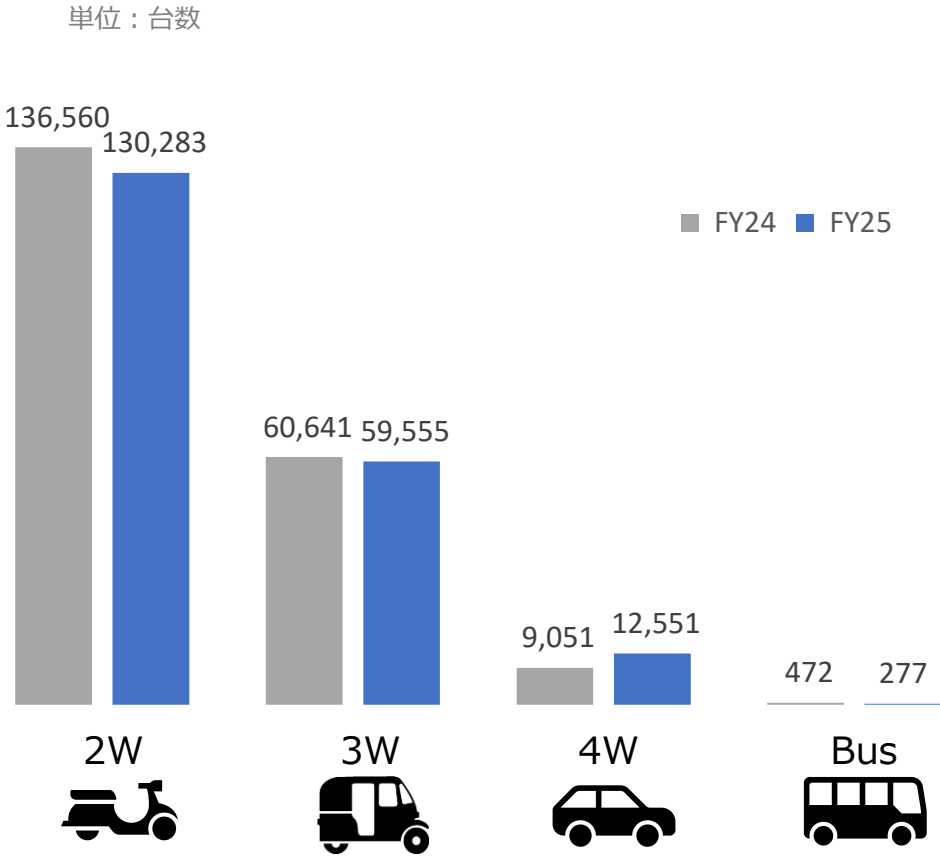
カテゴリー別販売台数比較

- 3月は、2月と比較すると増加傾向であり、2輪は大きく上昇した。
- 4輪は昨年の同時期を上回る販売台数を記録したが、その他のカテゴリーは昨年同時期を下回った。

過去1年間のカテゴリー別販売台数推移



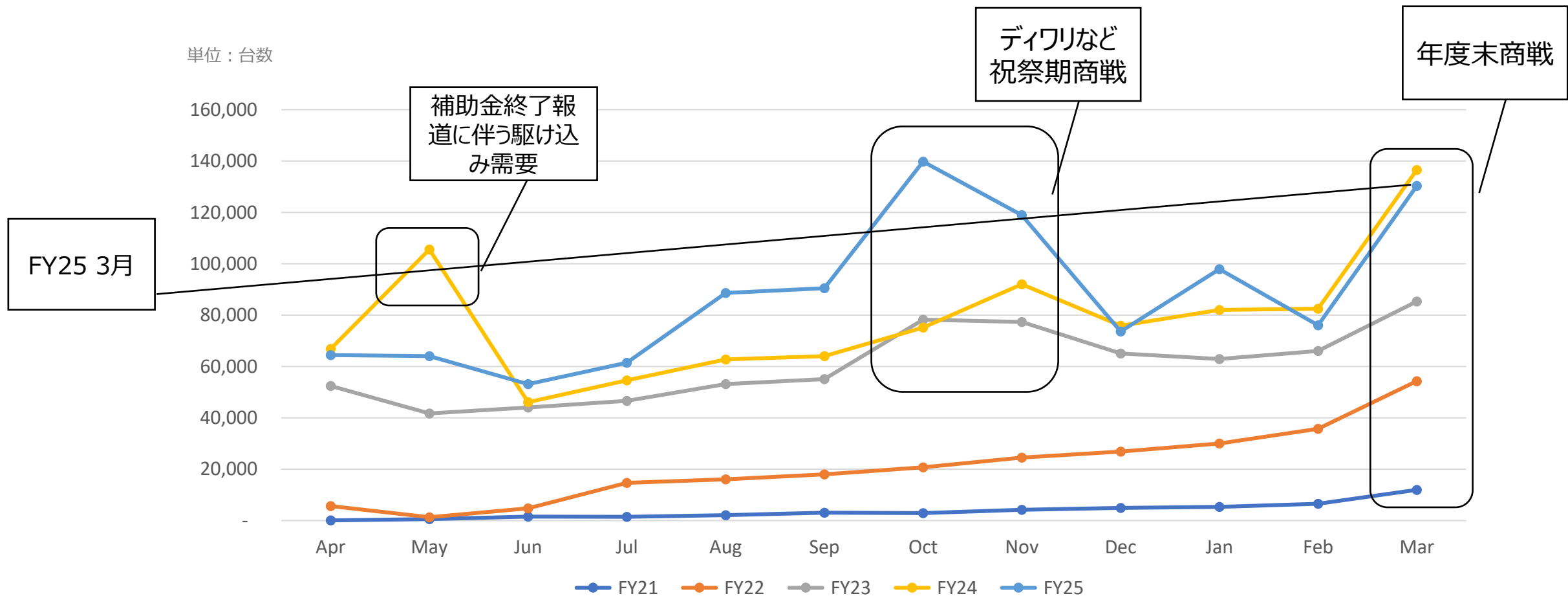
3月販売台数前年同月比



Source: SMEV. <https://www.smev.in/statistics>, VAHAN .
<https://vahan.parivahan.gov.in/vahan4dashboard/vahan/view/reportview.xhtml>
(2025年4月1日).

会計年度別電動2輪車販売推移

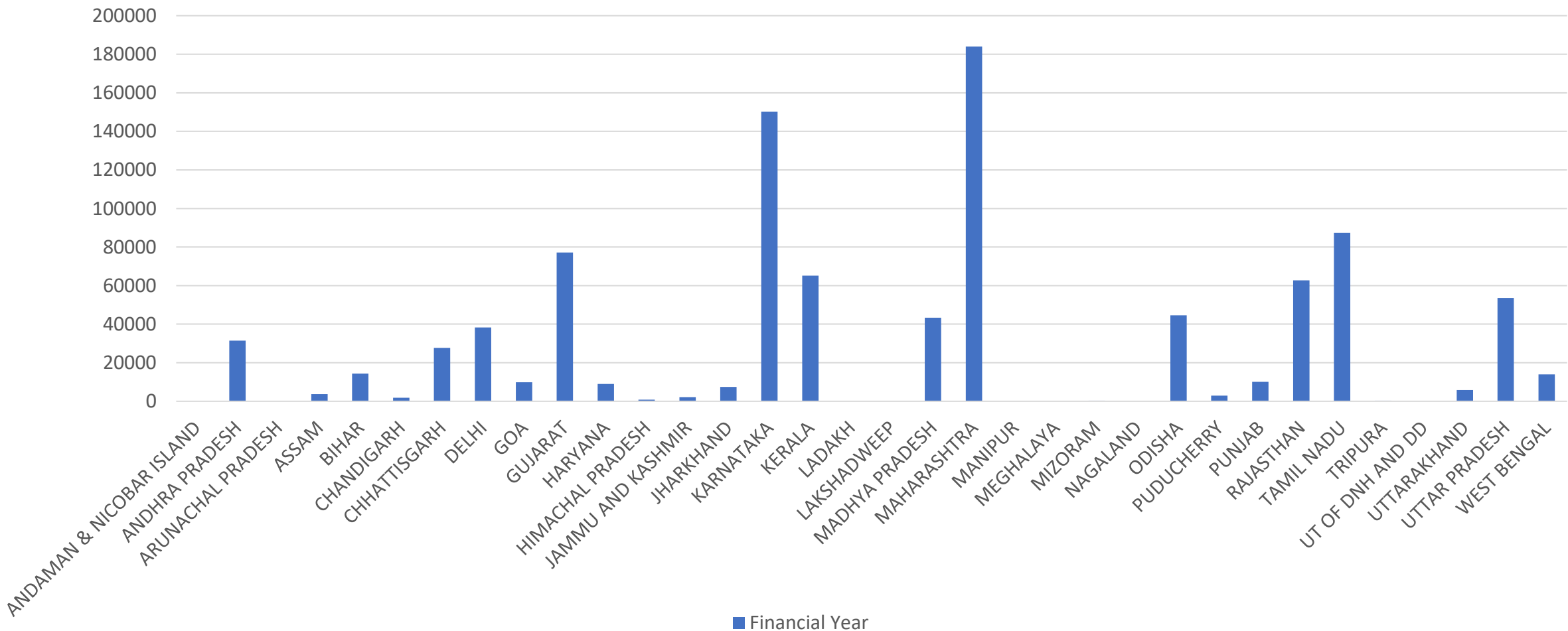
- 2輪カテゴリーは毎年販売台数を伸ばしており、FY24は一年間ほとんど全ての月で前年度を上回っている。
- インドにおける大きな商戦期は、祝祭期と年度末となっている。



Source: SMEV. <https://www.smev.in/statistics>, VAHAN .
<https://vahan.parivahan.gov.in/vahan4dashboard/vahan/view/reportview.xhtml>
(2025年4月1日).

E-2W 地域別販売台数 FY 23-24

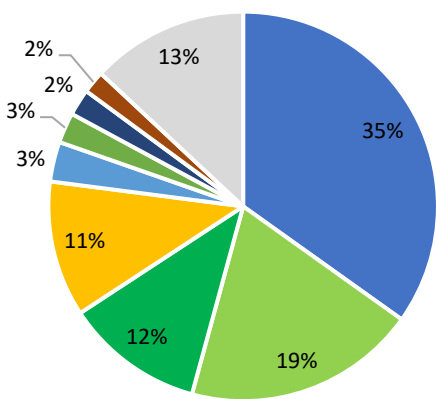
- カルナタカ、マハラシュトラ州を含む南インドで2wの販売台数割合が特に多い。



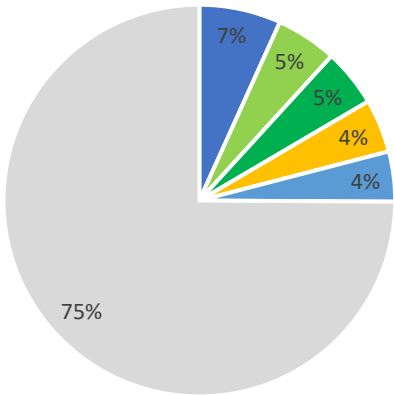
(出典) VAHAN. (2024年12月02日現在). <https://vahan.parivahan.gov.in/vahan4dashboard/vahan/view/reportview.xhtml>

メーカー別販売シェア: FY24

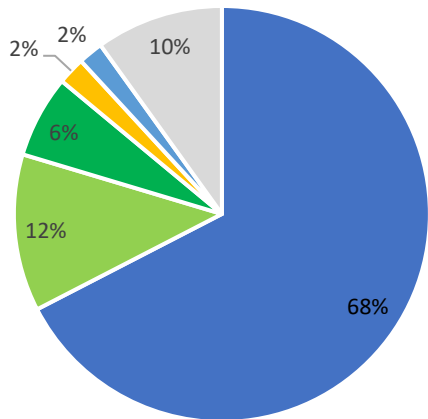
- 2輪は、OLAを筆頭にTVS, Ather, Bajajが続き、この上位4社で77%を占めている。
- 4輪は、現在ではTATAが市場シェアの3分の2を支配しており、続いてM Gモーター、マヒンドラとなっている。



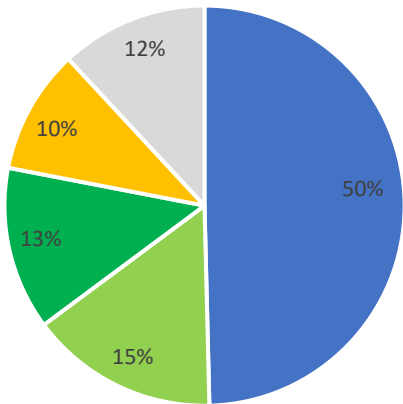
- OLA ELECTRIC
- TVS MOTOR
- ATHER ENERGY
- BAJAJ AUTO
- GREAVES ELECTRIC
- AMPERE VEHICLES
- OKINAWA AUTOTECH
- HERO MOTOCORP
- Other



- YC ELECTRIC VEHICLE
- MAHINDRA & MAHINDRA LIMITED
- SAERA ELECTRIC AUTO PVT LTD
- MAHINDRA LAST MILE MOBILITY LTD
- DILLI ELECTRIC AUTO PVT LTD
- Other



- TATA
- MG MOTOR
- MAHINDRA & MAHINDRA
- PCA AUTOMOBILES
- HYUNDAI MOTOR
- Other

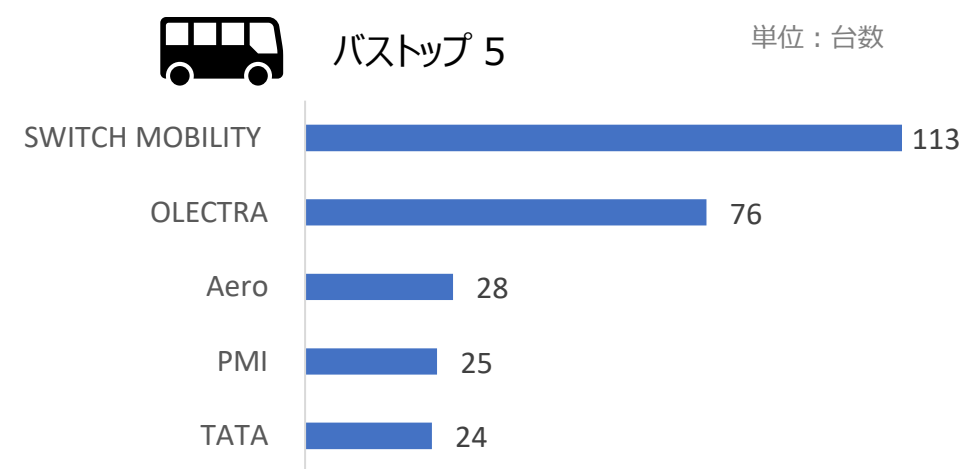
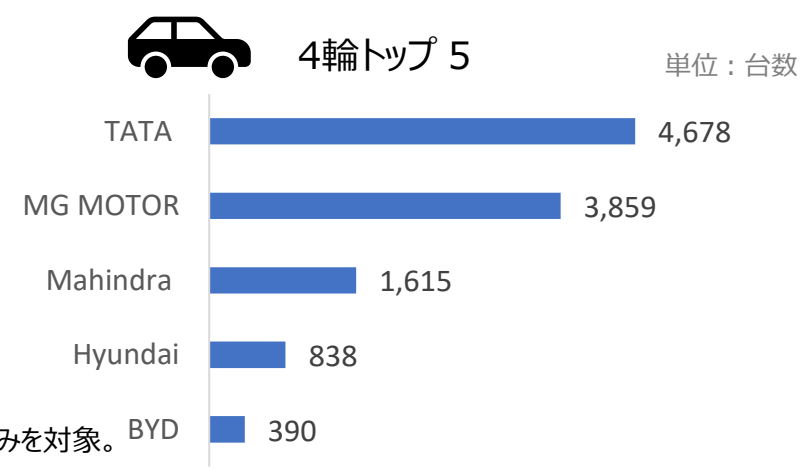
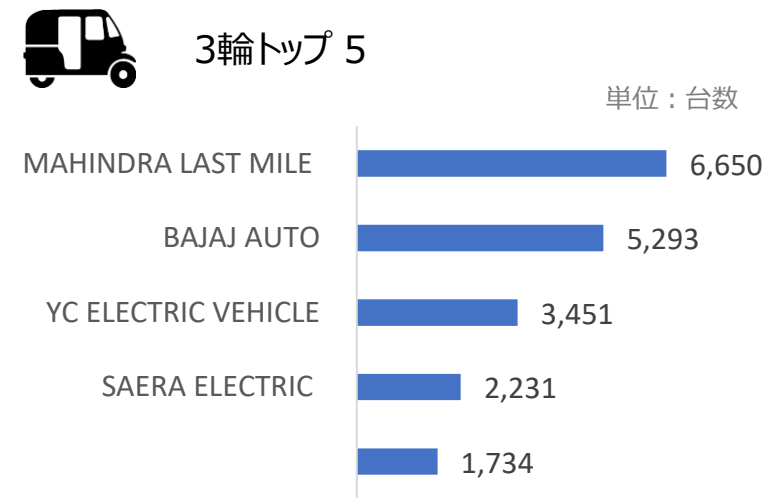
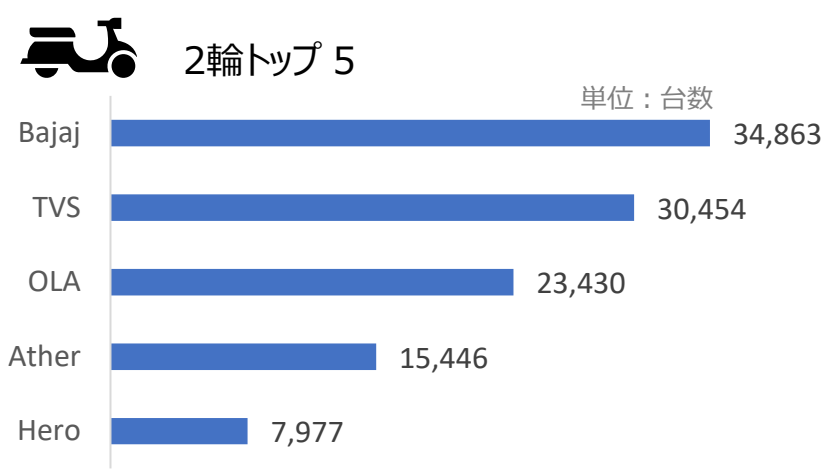


- TATA MOTORS LTD
- JBM AUTO LIMITED
- OLECTRA GREENTECH LTD
- PMI ELECTRO MOBILITY SOLUTIONS PRIVATE LIMITED
- Other

(出典) VAHAN. <https://vahan.parivahan.gov.in/vahan4dashboard/vahan/view/reportview.xhtml>

販売台数トップ5 EVブランド： 2025年3月期

- 3月は、Bajaj、TVSが老舗2輪メーカーが好調な販売実績を誇り、勢いをつけている。



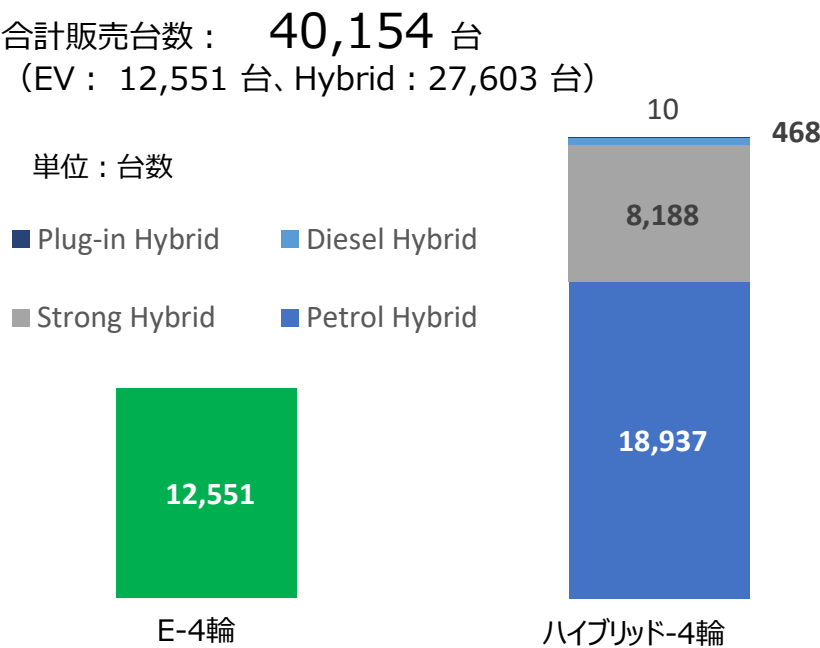
※EVは、BEVのみを対象。

(出典) VAHAN. (2025年4月1日現在). <https://vahan.parivahan.gov.in/vahan4dashboard/vahan/view/reportview.xhtml>

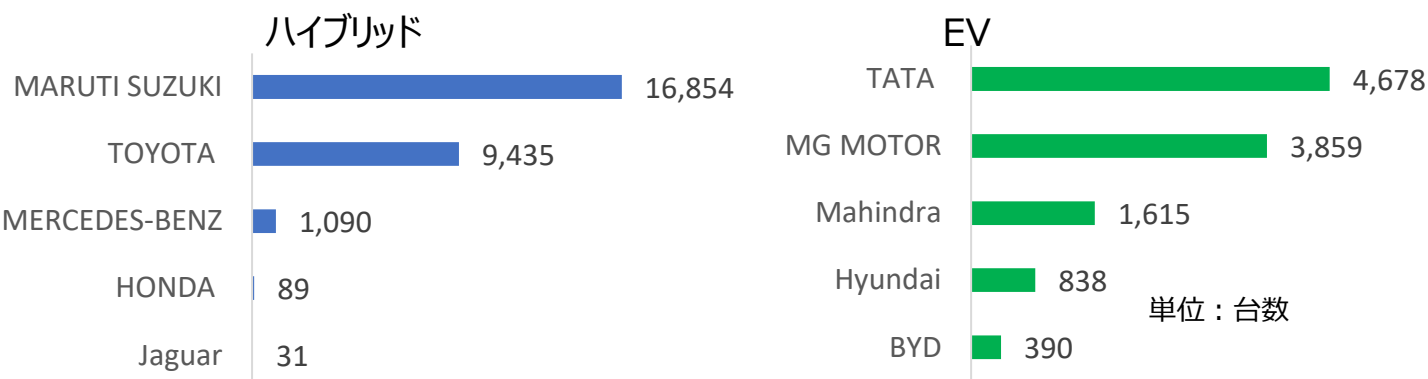
ハイブリッド車3月度の販売台数及びEV車との比較

- EVとハイブリッド車の比較では、ハイブリッド車の販売台数は電動4輪を大きく上回っている。
- ハイブリッド車主力であるマルチ・スズキとトヨタが販売台数1位と2位であり、続いてEV主力のタタとなっている。現在のインドでは、ハイブリッド車が主流であるが、ストロングハイブリッド、プラグインハイブリッドは少ない。

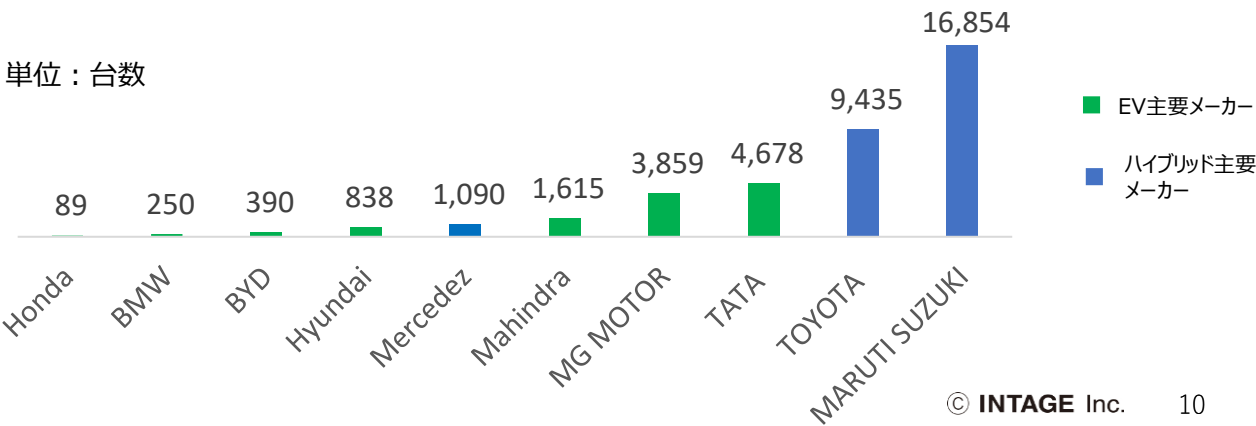
EVとハイブリッド販売台数比較



メーカー別EVとハイブリッド販売台数比較



メーカー別EVとハイブリッド合計販売台数比較



※ハイブリッドは、ディーゼルハイブリッド、ペトロールハイブリッド、プラグインハイブリッド、ストロングハイブリッドを含んでいます。

(出典) VAHAN (2025年4月1日現在).
<https://vahan.parivahan.gov.in/vahan4dashboard/vahan/view/reportview.xhtml>

EVに関する政策の動向（終了）

- 2023年3月31日付でFaster Adaptation Manufacturing of Electric Vehicle (FAME 2) が終了し、4月1日より政府主導のもと新しい政策 Electric Mobility Promotion Scheme-2024 (EMPS 2024) が開始された。
- FAME 2では、3年で計画され（最終的には5年）、2輪・3輪だけではなく4輪・バスも対象であり、1,000億ルピーの予算が投下された。一方で、EMPS2024では、4か月間の実施で、予算も50億ルピー、対象のEVカテゴリーは2輪と3輪だけの予定である。
- 4輪とバスについてはすでに実施されている、Auto PLIとPM-eBus Sewa Schemeで支援が継続されるとのことである。

	FAME 2	EMPS 2024
実施期間	3 年（最終的には5年） (2019年4月1日 - 2024年3月31日)	4か月 (2024年4月1日 - 2024年9月31日) 7月31日から2か月延長
予算	1,000億 ルピー (最終的には, 1,150億 ルピー)	50億ルピー (内、33億3,300万ルピーが、2輪に当てられる。)
対象車種	e-2輪, e-3輪, e-4輪 Strong Hybrid 4W, PHEV, e-Buses	e-2輪 ・ e-3輪
消費者向け補助金額	購入補助金額 • 10,000 ルピー/kWh バスを除くすべての車種（車両価格の20%まで） • 20,000 ルピー/kWh バス（車両価格の40%） インセンティブ総額の目安 • 2輪：20,000 ルピー • 3輪 (e-リキシャーを含む): 50,000 ルピー • 4輪：15,000ルピー	購入時補助金額 • 5,000ルピー/kWh for e-2輪 ・ e-3輪 インセンティブ最大額（もしくは、工場出荷額の15%のどちらか低い方） • 2輪: 10,000 ルピー • E-リキシャー ・ e-カート: 25,000 ルピー • E-3輪 (L5 カテゴリー): 50,000 ルピー
メーカー向け補助金	メーカーは販売奨励金として、払い戻しを受ける。	メーカーは販売奨励金として、払い戻しを受ける。
国内製造要件	製造の国内化 Phase manufacturing Program (PMP) が適用される。	製造の国内化 Phase manufacturing Program (PMP) が適用される。
充電ステーションの設置	充電ステーションの設置支援	計画されていない。

(出典) Ministry of Heavy Industries
<https://heavyindustries.gov.in/sites/default/files/2024-03/emps-2024.pdf>
https://fame2.heavyindustries.gov.in/content/english/11_1_PolicyDocument.aspx

4輪に関する政策 AUTO PLI 概要

- EV完成車メーカー・先進部品メーカーを対象にした生産連動型補助金のスキームとなっており、インセンティブ率などが異なる。

項目	OEM向けインセンティブスキーム	コンポーネント企業向けインセンティブスキーム
対象製品	- 電池電気自動車完成車 - 水素燃料電池車完成車	- 先進の自動車技術を使った部品 - CKD/SKDキット - 車両アグリゲート
条件	OEM - グローバルグループ収益（自動車および/または自動車部品製造による）：1,000億ルピー - 投資：当社またはそのグループ会社による固定資産(総額) 3,00億ルピーの投資。 - 最低国内新規投資条件あり。	部品 - グローバルグループ収益（自動車および/または自動車部品製造による）：50億ルピー - 投資：当社またはそのグループ会社による固定資産(総額) 15億ルピーの投資。 - 最低国内新規投資条件あり。
インセンティブ率	販売額の13~16%	販売額の8~11%
追加インセンティブ	累計1,000億ルピー超で+2%	- 累計125億ルピー超で+2% - 電気自動車/水素燃料電池車向けに+5%
その他条件	- 国内付加価値50%以上 - 翌年以降10%以上の売上増が必要	

(出典) myscheme. <https://www.myscheme.gov.in/schemes/plisaaci#eligibility>

EV関連ニュース:2025年3月

• デリーは、Delhi EV Policy 2.0を発表する予定。

デリー州政府は、新しいEV政策を2025年4月中に発表するようであるとHI Autoは伝えている。新しく予定されているEV政策では、需要の創生トインフラストラクチャーの開発に焦点を当てるのではないかと報道されている。デリー政府は、2027年までに95%のEV適応率を目指しており、EVの推進を進めたい考えだ。また、新しいビルには、駐車場全体の20%にEVチャージングポートを割り当て、古いビルには5%を割り当てる提案も考えられている。

<https://auto.hindustantimes.com/auto/news/delhi-ev-policy-2-0-95-electric-vehicle-adoption-to-20-reserved-parking-space-in-new-buildings-key-facts-to-know-41742874915714.html>

• BYDは、インドに製造施設を建設予定。

中国EV大手のBYDは、ハイデラバード近郊に製造拠点を建設する準備をしている。現在、BYDの関係者はハイデラバード近郊を評価しており、最終的な決断が下されると伝えられている。ハイデラバード近郊で建設が決定すれば、テランガナ州はEV業界で最も大きな投資誘致の一つとなる。現在BYDは、中国からの輸入をし、インドで販売しているが、工場建設による大幅なコスト削減となる。

https://www.business-standard.com/industry/auto/byd-electric-car-factory-hyderabad-telangana-ev-manufacturing-india-125032701329_1.html

• ラジャスタン自動車所有者向けEV補助金ポータルを立ち上げ

ラジャスタン州の電気自動車所有者は、現在最終テスト段階にあるNICが開発した新しいポータルを通じて、来月から補助金を申請できる予定だ。同州は、今年2月に20億ルピーの電気自動車推進ファンドを立ち上げ、電気自動車の購入者にGSTの払い戻しと1回限りの助成金が提供される。この補助金の対象となるのは、2022年9月以降に購入および登録された車両に適用される。

<https://timesofindia.indiatimes.com/city/jaipur/rajasthan-to-launch-ev-subsidy-portal-for-vehicle-owners-next-month/articleshow/119619444.cms>

• 25年度インドEVセグメント約200万台を記録

電気自動車（EV）の総登録台数は、電動二輪車、三輪車、乗用車などの主要セグメントで増加し、25年度に200万台近くまで急増した。25年度は、FAMEの終了などもあり、EVの需要に不安があったにもかかわらず、24年度の168万台から16%増加の約200万台に登録台数を記録した。25年度は、既存プレイヤーによる新製品の投入、競争力のある価格帯での新モデルなどが需要を後押しした。成長を続けるインドのEV市場に26年度はどのような動きがあるのだろうか。

<https://www.thehindubusinessline.com/companies/battery-power-indias-ev-segment-surges-to-nearly-2-million-registrations-in-fy25/article69397148.ece>

• Exponent Energyが新しい1.5MW急速充電を発表

バンガロールは発のスタートアップExponent Energyは、今年後半には世界初のEV向け1.5MW超急速充電システムを立ち上げる準備を進めている。BYDは、1 MWの充電を発表し大きな期待が寄せられていたが、それを超える充電キャパシティを持つことになる。

<https://economictimes.indiatimes.com/industry/renewables/byd-set-the-bar-india-just-raised-it-exponent-energy-announces-new-1-5mw-rapid-charging/articleshow/119216721.cms?from=mdr>



Create Consumer-centric Values

お客様企業のマーケティングに寄り添い、共に生活者の幸せを実現する

Contact

info-india@intage.com